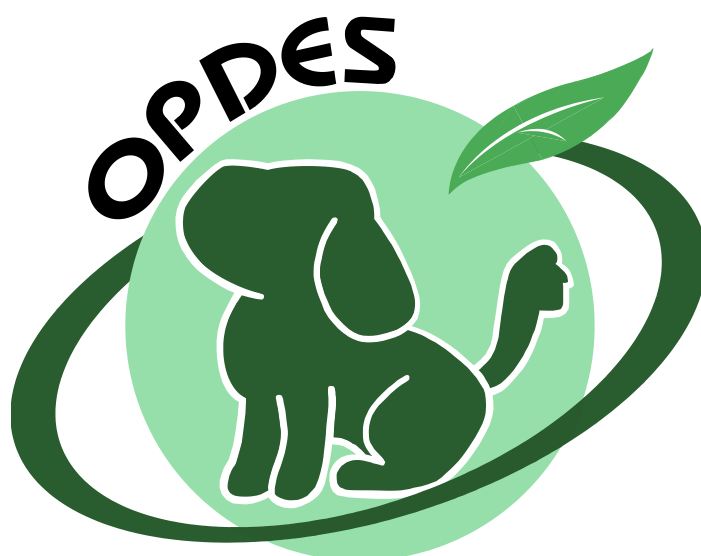


OPDES 犬の社会化認定試験(チームテスト)

2009 オビディエンス試験(競技)

規定 & 審査表



オビディエンスチャンピオン制度

競技会の大小に関わらず、オビディエンス1度以上のクラスに下記のポイントが与えられます
累積30ポイントを獲得した犬にオビディエンスチャンピオンの称号が与えられます

96%~100%	(評価 V 優)	10ポイント
90%~95.5%	(評価 SG 特良)	7ポイント
80%~89.5%	(評価 G 良)	5ポイント

2003年 1月 6日 初版作成
2005年 8月10日 改正
2009年 1月 1日 改正

OPDES 犬の社会化認定試験（チームテスト）

全般的な規約

「チーム」とは飼い主と犬を意味します。

「犬の飼主と一緒に暮らすその犬に義務教育を行うこと」が目的であるこの試験には、OPDESの理念である「命ある全ての犬に教育を」に基づき、血統書のあるなしに関わらず、すべての犬種およびすべての大きさの犬が受験できます。ただし、受験時において犬の年齢が12ヶ月以上であること。狂犬病ワクチンが接種済みであり、有効期限内であること。妊娠中の犬や、病犬、怪我をしている犬は受験できません。発情しているメス犬は受験番号が一番最後になります。

試験はオビディエンステスト（Aセクション）と実社会での犬の態度と行動テスト（Bセクション）の2部門で構成されています。Aセクションは準備された30m×40m以上のグラウンドや芝地で行い、Bセクションは実際に道路や各施設で行われます。Aセクションで35点以上を得なければ、Bセクションは受験できません。

全試験中、あるいは試験会場（駐車場など、その近辺も含む）において、犬の社会化認定試験に参加する者として相応しくない行動（犬の排便をそのままにしておく、犬に対する度を越えた体罰、他の犬に噛み付く等）をハンドラーあるいは受験犬が行ったことを審査員が確認した場合、その犬の試験は中止され、不合格となります。審査員が試験中、続行不能と判断した場合も、その時点で試験は中止されて不合格となります。

犬の各動作は原則として、ハンドラーの声による命令だけで行われなければいけません。ただし、身体的にそのことが困難な方は、手による合図等や、犬を右側においてコントロールしてもかまいません。

各課目は全て審査員の合図で開始します。次に行う課目を忘れて審査員に尋ねることや、課目の内容を指示してくれるように前もって頼むことは問題ありません。1つの課目を終了して、次の課目を始める前に犬をさわって誉めてやることはかまいません。規定に明記されていない事態に関しては審査員が判断します。審査終了後は直ちに審査員から講評がなされ、評価に基づく得点と合否が発表されます。

Bセクションは点数による審査ではなく犬の態度と行動により課題ごとに「信頼できる」、または「信頼できない」と評価されます。

合格となるには、Aセクションで35点以上を獲得し、なおかつBセクションで全て「信頼できる」の評価を得たうえ、ハンドラーは講習を受けた後、筆記試験を行い70点以上を取得しなければなりません。チームテスト合格の認定は受験した「チーム」に対して与えられます。飼主以外の方が代理で受験することはできません（受験時のハンドラーを飼い主、あるいはその家族と見なします）

たとえ試験で不合格となっても、OPDESがその犬の飼育法などが間違っていると見なしたわけではありません。4週間の間隔を開ければ再受験することができます。

チームテスト実施要領

Aセクション：チームテスト・レベル1（TT1）

オビディエンステスト/OB ビギナーの規定で行われます（全般規定も含む）

Aセクション：チームテスト・レベル2（TT2）

オビディエンステスト/OB 1度の規定で行われます（全般規定も含む）

Bセクション：チームテスト・レベル1、2（共通）

実社会でのチームの態度と行動テスト

Bセクションは実際の道路、あるいは犬連れが許可されている、さまざまな施設で行われます（オビディエンス会場では行われません）。

実社会での犬の態度と行動を審査するのにふさわしく、それらの施設が利用できる場合（犬と共にエレベーターに乗れる。犬同伴OKのレストラン等）は、審査員の判断で3課題のいずれかをそれに置き換えて、または3課題に組み合わせて行われます。

Aセクション終了後に、そのペア（2頭あるいは3頭）ごとにBセクションを行うか、Aセクション全終了後に全犬同時に行われるかは、担当審査員によって決定されます。過去にチームテストを受験合格した犬でも毎受験時にBセクションは審査されます。

人との会話中に触られたときの態度と行動

名前を呼ばれたチームは審査員のもとまで行って握手をし、自然な感じで審査員と会話をします。このとき犬はリードに繋がれた状態で、ハンドラーの側にいて、立っていても、座ったりしてもかまいません。審査員が「触ってもいいですか？」と尋ねてから、犬を触ります（頭をなでる程度）。そのときに犬は怯えたり、攻撃的であってははいけません。

人混みや道路を歩行したときの態度と行動

試験会場の状況に応じて、道路や人混み、あるいは他の犬のいるところを審査員の指示通りに歩行します。犬はリードに繋がれた状態で自然に歩いてかまいません。指示通りに歩行した後、審査員のところに戻ってきます。そのときに犬は、人や他の犬に、あるいは車や自転車に怯えたり、攻撃的であってははいけません。

犬が待たされているときに人や犬が近寄ってきたときの態度と行動

犬は審査員の指定した場所に繋がれる。あるいは適当な場所がない場合ヘルパーがリードを持ち、ハンドラーは犬に見えない場所に隠れる。見知らぬ人や他の犬が近づき、繋がれた犬のすぐ側を通過します。そのときに犬は怯えたり、攻撃的であってははいけません。

飼い主による筆記テスト

OPDES オビディエンス試験（競技）

全般規定

ハンドラーと出場犬はスポーツマンシップの精神で、また愛犬家としてのルールを守って参加すること。

リードはポケットに入れるか、肩に掛ける（左上、右下）。犬の着衣や特殊な首輪は審査員が認めれば問題ない。いかなる場合も首輪を締め（チョーク装着）の状態にしてはならない。スパイク首輪の装着は認められない。

手にはなにも持っていない。防寒目的以外の手袋の装着も禁止されている。

競技は全て基本姿勢に始まり、基本姿勢で終了する。各課目の終了時に犬を誉めてもかまわない。

命令はどのような言葉でも良いが、一動作に対して短い単一の「声符」だけが許される。

手や体を使用した場合は、その度合いにより評価が下げられる。（前進を除く）

左Uターンは、ハンドラーは必ず左回りで行うが、犬は頭を軸に体を180度ひねって、あるいはハンドラーの後ろを回ってのどちらでも良い。

ハンドラーが犬のもとに戻るとき、犬の右側に直接あるいは犬の後ろを回ってのどちらでもよい。正面に座っている犬を左側に座らせるとき、犬は頭を軸に体を180度ひねって、あるいはハンドラーの後ろを回ってのどちらでも良い。

課目と課目の間に移動が必要な場合に犬を自由にすることはできない。ダンベルまたは任意物品を取りに行くときは、その地点の最低3歩手前まで犬と一緒にいく。

審査は各課目毎に評価が下され、その評価に応じた点数が与えられる。採点の最低減点単位は0.5点とする。出場者が審査表の閲覧を希望した場合、審査員はそれを拒むことはできない。しかし、審査内容に意義を申し立てる事はできない。

同点は同順位とする（競技の場合）。

審査終了後は直ちに審査員が評価と得点を公表します。審査員の署名がなされた訓練手帳（グリーンブック）の返還により競技終了とします。

課目の中止

ハンドラーの三度による命令で、その課目あるいは課目に必要な動作が実行できない場合、その課目は0点となる（競技は続行できる）。例：三度の「フセ」の命令で犬は伏せない。等々

試験（競技）失格

競技中いかなる場面（入退場や申告も含む）でも、ハンドラーのスポーツマンシップに欠ける態度、あるいは審査員が犬の性格に重大な欠点を認めた場合、競技は中止され失格となる。得点は一切与えられない。

コントロール不能犬、あるいは犬がハンドラーのもとを離れて三度の呼び戻しでハンドラーのもとにあるいは競技場内に戻ってこない場合も競技は中止され失格となる。

オビディエンス ビギナー & チームテスト1 50点

- | | |
|------------------|-----|
| 1. リード付きで横に付いて歩く | 15点 |
| 2. 座って待つ | 10点 |
| 3. 伏せー呼び寄せ | 15点 |
| 4. 伏せて待つ | 10点 |

オビディエンス1度(OB1) & チームテスト2 50点

- | | |
|------------------|-----|
| 1. リードなしで横に付いて歩く | 15点 |
| 2. 常歩中の座れ | 10点 |
| 3. 常歩中の伏せー呼び寄せ | 15点 |
| 4. 伏せて待つ | 10点 |

オビディエンス2度(OB2) 100点

- | | |
|---------------------|-----|
| 1. リードなしで横に付いて歩く | 20点 |
| 2. 常歩中の座れ | 10点 |
| 3. 常歩中の伏せー呼び寄せ | 20点 |
| 4. 常歩中の立止 呼び寄せ | 20点 |
| 5. 物品持来(ダンベル等の任意物品) | 20点 |
| 6. 伏せて待つ | 10点 |

オビディエンス3度(OB3) 100点

- | | |
|------------------------------------|-----|
| 1. リードなしで横に付いて歩く | 20点 |
| 2. 常歩中の座れ | 10点 |
| 3. 常歩中の伏せー呼び寄せ | 10点 |
| 4. 常歩中の立止 呼び寄せ | 10点 |
| 5. 物品持来(ダンベル等の任意物品) | 10点 |
| 6. 障害物品持来(ダンベル等の任意物品・障害の高さは最低体高以上) | 20点 |
| 7. 前進及び伏せ | 10点 |
| 8. 伏せて待つ | 10点 |

オビディエンス ビギナー & チームテスト1 50点

*全課目リード付き（課目3は外しても良い）

1. リード付きで横に付いて歩く 15点 要領図（別ウインドウ）

リード付きの犬を伴った2チームが審査員の前に進み出て申告をします。

ゼッケン番号の若いチームが出発点で基本姿勢（ハンドラーは進行方向に立ち、犬は真横で真っ直ぐに座る）で立ち、審査員の指示を待ちます。

審査員の指示で要領図の通りに歩行します。

命令は出発時、停止後の再出発、歩度の変更時だけ許される。

停止時、コーナー、左Uターンなどでは使用できない。群衆は8の字で行進する。

2. 座って待つ 10点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢で立つ。

審査員の指示で犬に「マテ」を命令し、リードは犬の横に静かに置きます。ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ちます。

3. 伏せー呼び寄せ 15点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢で立つ。審査員の指示で犬に「フセ」を命令し、リードは犬の横に静かに置きます。（希望すれば「フセ」を命令する前にリードを外しても良い）

ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で「コイ」を命じる。呼ばれた犬はハンドラーの正面に座る。

審査員の指示なしで一呼吸（明確な間）おいて犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。

4. 伏せて待つ 10点

ペアのチームが課目1～3を行っている間、指定された場所で犬は伏せの姿勢で待ってなければなりません。

審査員に申告をした後、ゼッケン番号の若いチームが出発地点に、そしてゼッケン番号の後のチームが指定された場所に行きます。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとる。

審査員の指示で犬に「フセ」を命じてリードは犬の横に静かに置く。

ハンドラーは振り返ることなく、10歩進んで犬に肩を向けて立ち止まります。

審査員が犬のもとに行くように指示したら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の指示で犬を座らせます。

（ハンドラーは犬を見てもかまわないが、指示を与えた場合は減点される）

ペアのチームが課目2.「座って待つ」を終える前に3m以上移動した場合、得点は0点となります。

オビディエンス1度 & チームテスト2 50点

* リードは最初に行う課目の前に外す。全課目終了後に装着する。

1. リードなしで横に付いて歩く 15点 要領図(別ウィンドウ)

リード付の犬を伴った2チームが審査員の前に進み出て申告をします。

ゼッケン番号の若いチームが出発点でリードを外し、基本姿勢(ハンドラーと犬は進行方向に立ち、犬は真横で静かに真っ直ぐに座る)で立ち、審査員の指示を待ちます。

審査員の指示で要領図の通りに歩行します。

命令は出発時、停止後の再出発、歩度の変更時だけ許される。

停止時、コーナー、左Uターンなどでは使用できない。群衆は8の字で行進する。

2. 常歩中の座れ 10点

出発点での基本姿勢から、審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。

10~15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「スワレ」の命令で犬を座らせ、ハンドラーは振り返ることなくそのまま30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ちます。

3. 常歩中の伏せー呼び寄せ 15点

この課目は出発点に戻ることなく(会場が狭い場合は戻っても良い)、常歩中の座れを終えた地点での基本姿勢から始まります。

審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。10~15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「フセ」の命令で犬を伏せさせ、ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で「コイ」を命じる。呼ばれた犬はハンドラーの正面に座る。

審査員の指示なしで一呼吸(明確な間)おいて犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。

4. 伏せて待つ 10点

ペアのチームが課目1~3を行っている間、指定された場所で犬は伏せの姿勢で待っていません。

審査員に申告をした後、ゼッケン番号の若いチームが出発地点に、そしてゼッケン番号の後のチームが指定された場所に行きます。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとり、リードを外す。

審査員の指示で犬に「フセ」を命じてハンドラーは振り返ることなく、20歩進んで犬に肩を向けて立ち止まります。

審査員が犬のもとに行くように指示したら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、

審査員の指示で犬を座らせます。

(ハンドラーは犬を見てもかまわないが、指示を与えた場合は減点される)

ペアのチームが課目3「常歩中の伏せー呼び寄せ」を終える前に3m以上移動した場合、得点は0点となります。

オビディエンス 2度 100点

* リードは最初に行う課目の前に外す。全課目終了後に装着する。

1. リードなしで横に付いて歩く 20点 要領図(別ウインドウ)

リード付の犬を伴った2チームが審査員の前に進み出て申告をします。

ゼッケン番号の若いチームが出発点でリードを外し、基本姿勢(ハンドラーと犬は進行方向に立ち、犬は真横で静かに真っ直ぐに座る)で立ち、審査員の指示を待ちます。

審査員の指示で要領図の通りに歩行します。

命令は出発時、停止後の再出発、歩度の変更時だけ許される。

停止時、コーナー、左Uターンなどでは使用できない。群衆は8の字で行進する。

2. 常歩中の座れ 10点

出発点での基本姿勢から、審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。

10~15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「スワレ」の命令で犬を座らせ、ハンドラーは振り返ることなくそのまま30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ちます。

3. 常歩中の伏せー呼び寄せ 20点

この課目は出発点に戻ることなく(会場が狭い場合は戻っても良い)常歩中の座れを終えた地点での基本姿勢から始まります。

審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。10~15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「フセ」の命令で犬を伏せさせ、ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で「コイ」を命じる。呼ばれた犬はハンドラーの正面に座る。

審査員の指示なしで一呼吸(明確な間)において犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。

4. 常歩中の立止 呼び寄せ 20点

この課目は、常歩中の伏せー呼び寄せを終えた地点での基本姿勢から始まります。

審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で進む。10~15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「タッテ」の命令で犬を立止させ、ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で「コイ」を命じる。呼ばれた犬はハンドラーの正面に座る。

審査員の指示なしで一呼吸(明確な間)において犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。

5．物品持来（ダンベル等の任意物品） 20点

基本姿勢からハンドラーは、ダンベル等を最低10歩前方に投げ、ダンベル等が完全に静止したら審査員の指示なしで犬に「モッテコイ」を命じる。

犬は往路、復路ともに最短距離で素早くハンドラーのもとへダンベル等を持ってくる。

犬はダンベル等をくわえたまま正面停座をする。ハンドラーは審査員の指示なしで一呼吸（明確な間）において「ダセ」を命令してダンベル等を受け取る。受け取ったダンベル等は右手で持ちその腕は下に伸ばす。審査員の指示なしで一呼吸（明確な間）において犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。（任意物品＝ボールや音の鳴るおもちゃ系はNG）

6．伏せて待つ 10点

ペアのチームが課目1～5を行っている間、指定された場所で犬は伏せの姿勢で待っていなければなりません。

審査員に申告をした後、ゼッケン番号の若いチームが出発地点に、そしてゼッケン番号の後のチームが指定された場所へと行きます。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとり、リードを外す。

審査員の指示で犬に「フセ」を命じてハンドラーは振り返ることなく、30歩進んで犬から見えないように指定された隠れ場所に入る。

審査員が犬のもとに行くように指示したら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の指示で犬を座らせます。

（ハンドラーが犬を見ることは許されない。指示を与えた場合は減点される）

ペアのチームが課目4「常歩中の立止 呼び寄せ」を終える前に3m以上移動した場合、得点は0点となります。

オビディエンス3度 100点

* リードは最初に行う課目の前に外す。全課目終了後に装着する。

1. リードなしで横に付いて歩く 20点 要領図(別ウインドウ)

リード付の犬を伴った2チームが審査員の前に進み出て申告をします。

ゼッケン番号の若いチームが出発点でリードを外し、基本姿勢(ハンドラーと犬は進行方向に立ち、犬は真横で静かに真っ直ぐに座る)で立ち、審査員の指示を待ちます。

審査員の指示で要領図の通りに歩行します。

命令は出発時、停止後の再出発、歩度の変更時だけ許される。

停止時、コーナー、左Uターンなどでは使用できない。群衆は8の字で行進する。

2. 常歩中の座れ 10点

出発点での基本姿勢から、審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。

10~15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「スワレ」の命令で犬を座らせ、ハンドラーは振り返ることなくそのまま30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ちます。

3. 常歩中の伏せー呼び寄せ 10点

この課目は出発点に戻ることなく(会場が狭い場合は戻っても良い)常歩中の座れを終えた地点での基本姿勢から始まります。

審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。10~15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「フセ」の命令で犬を伏せさせ、ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で「コイ」を命じる。呼ばれた犬はハンドラーの正面に座る。

審査員の指示なしで一呼吸(明確な間)において犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。

4. 常歩中の立止 呼び寄せ 10点

この課目は、常歩中の伏せー呼び寄せを終えた地点での基本姿勢から始まります。

審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で進む。10~15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「タッテ」の命令で犬を立止させ、ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で「コイ」を命じる。呼ばれた犬はハンドラーの正面に座る。

審査員の指示なしで一呼吸(明確な間)において犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。

5．物品持来（ダンベル等の任意物品） 10点

基本姿勢からハンドラーは、ダンベル等を最低10歩前方に投げ、ダンベル等が完全に静止したら審査員の指示なしで犬に「モッテコイ」を命じる。

犬は往路、復路ともに最短距離で素早くハンドラーのもとへダンベル等を持ってくる。

犬はダンベル等をくわえたまま正面停座をする。ハンドラーは審査員の指示なしで一呼吸（明確な間）において「ダセ」を命令してダンベル等を受け取る。受け取ったダンベル等は右手で持ちその腕は下に伸ばす。審査員の指示なしで一呼吸（明確な間）において犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。（任意物品＝ボールや音の鳴るおもちゃ系はNG）

6．障害物品持来（ダンベル等の任意物品・障害の高さは最低体高以上）20点

障害の最低約5歩前で基本姿勢をとり、ハンドラーはダンベル等を障害の向こう側に投げる。ダンベル等が完全に静止したら審査員の指示なしで犬に「トベ」・「モッテコイ」の連続声符を命じる。

犬は障害に触れることなく飛び越え、すぐにダンベル等をくわえて飛び返りダンベル等をくわえたまま正面停座をする。ハンドラーは審査員の指示なしで一呼吸（明確な間）において「ダセ」を命令してダンベル等を受け取る。受け取ったダンベル等は右手で持ちその腕は下に伸ばす。審査員の指示なしで一呼吸（明確な間）において犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。（任意物品＝ボールや音の鳴るおもちゃ系はNG）

7．前進及び伏せ 10点

出発点での基本姿勢から、審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。10～15歩の間で犬に「マエヘ」を命じ、ハンドラーはその場で立ち止まる（命令と同時に腕を上げても良い）。犬が約30歩前進したら審査員の指示で「フセ」を命じる。

審査員が犬のもとに行くように指示したら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の指示で犬を座らせます。

8．伏せて待つ 10点

ペアのチームが課目1～6を行っている間、指定された場所で犬は伏せの姿勢で待ってなければなりません。

審査員に申告をした後、ゼッケン番号の若いチームが出発地点に、そしてゼッケン番号の後のチームが指定された場所へと行きます。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとり、リードを外す。

審査員の指示で犬に「フセ」を命じてハンドラーは振り返ることなく、30歩進んで犬から見えないように指定された隠れ場所に入る。

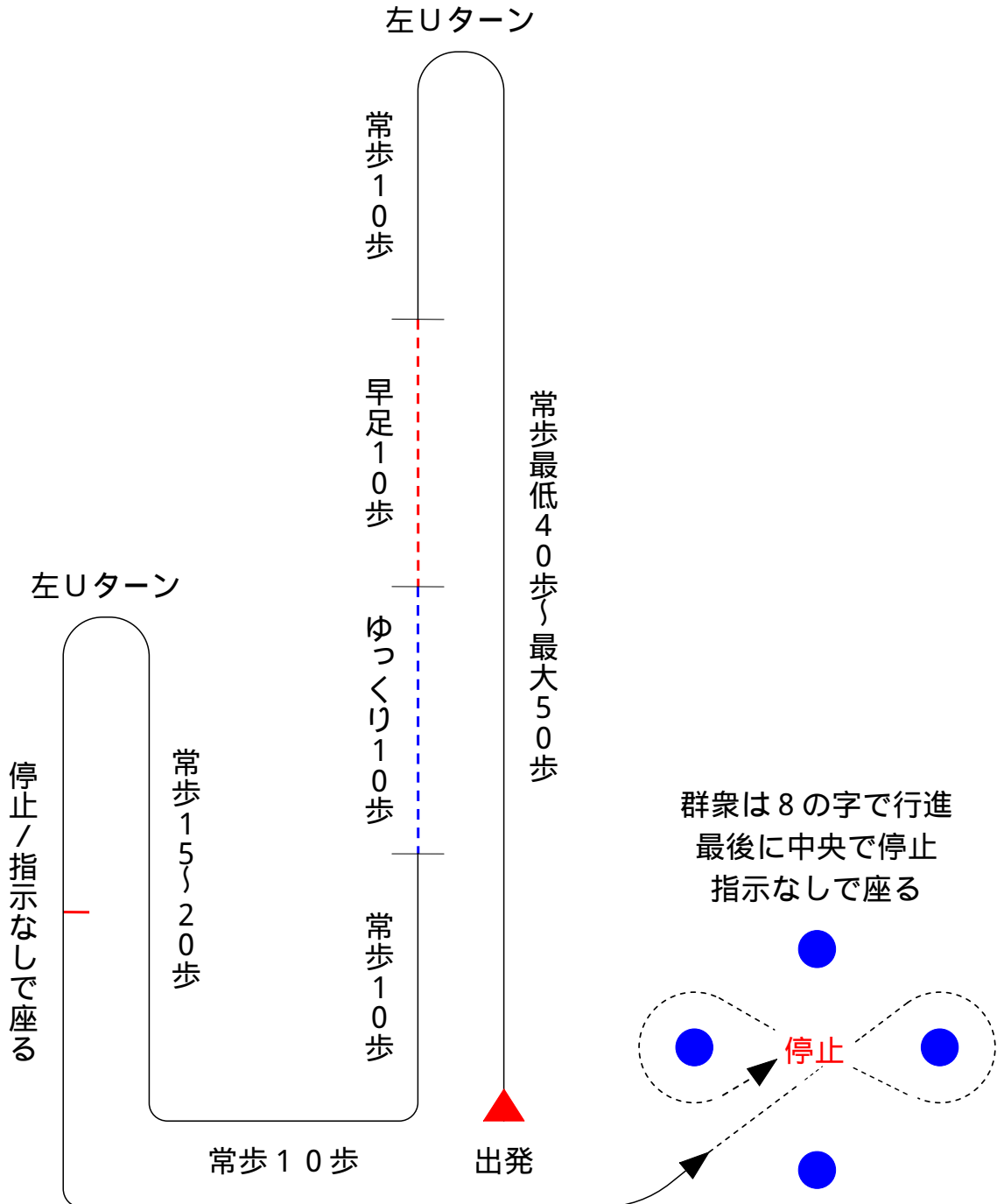
審査員が犬のもとに行くように指示したら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の指示で犬を座らせます。

（ハンドラーが犬を見ることは許されない。指示を与えた場合は減点される）

ペアのチームが課目5「物品持来」を終える前に3m以上移動した場合、得点は0点となります。

脚側行進要領図

チームテスト、ビギナー、OB 1、OB 2、OB 3、全共通



OPDES 犬の社会化認定試験（チームテスト）審査表

開催日： 年 月 日 主催：

		いずれかに 印 TT1 / TT2 初回 / TT2 永久 過去に筆記テストを受験して 合格した / 合格したことがない			
犬名				生年月日	
犬種			性別	牡・牝 外々 or チップ	
指導手	会員番号				
住所・TEL					
セクション A		配点	評価	得点	講 評
1	TT1 紐付きで横について歩く TT2 紐なしで横について歩く	15			
2	TT1 座って待つ TT2 常歩中の座れ	10			
3	TT1 伏せ - 呼び寄せ TT2 常歩中の伏せ - 呼び寄せ	15			
4	TT1 伏せて待つ TT2 伏せて待つ	10			
合計（採点は 0.5 点単位）		50			
セクション B					
1. 人との会話中その人に触れられたときの態度と行動					信頼できる / 信頼できない
2. 人混みや道路を歩行したときの犬の態度と行動					信頼できる / 信頼できない
3. 犬が待たされているときに他の人や犬が近寄ってきたときの犬の態度と行動					信頼できる / 信頼できない
4.					信頼できる / 信頼できない
5.					信頼できる / 信頼できない
6.					信頼できる / 信頼できない
合格は A セクションで 35 点以上で、なおかつ B セクションが全て信頼できる場合のみ。 さらに指導手が筆記試験において 70 点以上を取得していること。 合格 / 不合格（筆記試験 点） 審査員署名					
* 主催者は試験報告書 + 登録料を OPDES 事務局に 1 週間以内に提出すること * 審査表は担当審査員が最低 3 年間保管すること（主催者にも事務局にも提出しない）					

筆記テスト解答用紙 1問 2.5点 70点以上で合格

0 1		0 2		0 3		0 4		0 5	
0 6		0 7		0 8		0 9		1 0	
1 1		1 2		1 3		1 4		1 5	
1 6		1 7		1 8		1 9		2 0	
2 1									

2 2	1)								
	2)								
	3)								
	4)								
	5)								
	6)								
	7)								

2 3		2 4		2 5		2 6		2 7	
2 8		2 9		3 0		3 1		3 2	
3 3		3 4		3 5		3 6		3 7	
3 8		3 9		4 0					

2009 OPDES オビディエンス審査表

開催日： 年 月 日 会 場：

	ビギナー	OB1度	OB2度	OB3度			
犬名					生年月日		
犬種		性別	牡・牝	外ウ or フップ			
指導手	会員番号						
所有者	住所・TEL						
オビディエンスチャンピオンポイントの付与 有・無 5P・7P・10P							
	M	B	G	SG	V	OB1、2、3度 V = 10P SG = 7P G = 5P	
10	0-6.5	7-7.5	8-8.5	9-9.5	10		
15	0-10	10.5-11.5	12-13	13.5-14	14.5-15		
20	0-13.5	14-15.5	16-17.5	18-19	19.5-20		
50	0-34.5	35-39.5	40-44.5	45-47.5	48-50		
100	0-69.5	70-79.5	80-89.5	90-95.5	96-100		
課 目	B	1	2	3	評価	得点	講 評
1 紐付きで横について歩く	15	---	---	---			
2 紐なしで横について歩く	---	15	20	20			
3 座って待つ	10	---	---	---			
4 常歩中の座れ	---	10	10	10			
5 伏せ - 呼び寄せ	15	---	---	---			
6 常歩中の伏せ - 呼び寄せ	---	15	20	10			
7 常歩中の立止 - 呼び寄せ	---	---	20	10			
8 物品持来	---	---	20	10			
9 障害物品持来	---	---	---	20			
10 前進及び伏せ	---	---	---	10			
11 伏せて待つ	10	10	10	10			
最小採点は0.5	50	50	100	100			審査員署名
* 主催者は試験報告書 + 登録料を OPDES 事務局に 1 週間以内に提出すること * 審査表は担当審査員が最低 3 年間保管すること (主催者にも事務局にも提出しない)							